

みんなで挑戦！一輪車のテクニックを磨いたよ！

山口県岩国市・周北小学校・修成小学校

彼岸花があちこちで揺れる9月30日、山口県岩国市の西南にある市立周北小学校、同修成小学校の2校が一輪車講習会を受講しました。児童数は周北小が7人、



修成小は17人。どちらも一輪車に積極的に取り組んでいる学校です。

会場は修成小。校庭の真ん中に大きな楠の木がそびえています。「今日に備え、みんなやる気で練習してきました」と修成小の清水聡美校長。午前10時まえには周北小の児童たちも到着。いよいよ講習開始です。講師は世界大会優勝経験のある、おなじみの鈴木奈菜さんと須郷真弥さんです。

まずは技の紹介から。補助なし乗車、アイドリング、片足走行……。両校とも



少々自信を持っている子が多く「できる、できる！」との声。「じゃあ、これは？」。片足走行中の須郷さんは、ペダルをこいでいない方の足を前方にすーっと伸ばしました。姿勢もよく、とてもきれいなフォームです。「ええー」と子どもたち。披露される技は次第に高度になり、自然と拍手がわきました。

ペアの模範演技をはさみ、実習へ。しばらくすると、周北小の木村真彦校長が、

自ら初心者グループの先頭を走り始めました。子どもたちも喜んで後についていきます。一方、中級者グループは個々に技への挑戦を続け、次々と成功させていきました。

講習を終えると、全員整列。周北小の木村校長が「どうだった？ ただ『すごいな』と思うのか、一歩でも近付こうと思うのかで、何年か後に得られる結果が違います。それは勉強でも同じです」と語りかけました。児童の代表が「6年間やってきたけど知らないことがいっぱいありました」「横乗りやジャンプ乗りができる



ようになりました」と感謝の言葉を述べました。

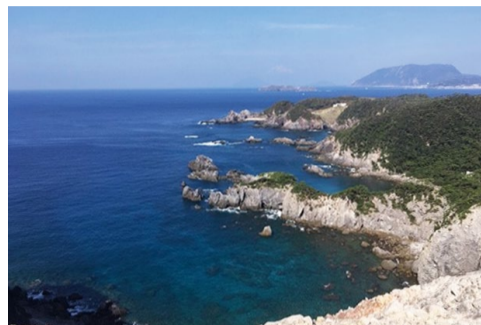
両校長とも強調したのは「本物」をじかに見る事の大切さでした。「目の前で見れば迫力が違う。今日のことは、きっと子どもたちの将来に役立ちます」。講習会は地元紙やテレビ局も取材に訪れ、子どもたちや講師にインタビューしていました。

この日は給食も両校合同。当番の子がメニューにある小松菜の由来などを一生懸命に説明し、みんなで「いただきます！」。講習中とはまた違った笑顔がはじけました。



東京・式根島小学校(日教弘主催)

東京・竹芝桟橋(さんばし)から高速ジェット船に乗り込むと、3時間10分で伊豆諸島の式根島に着きました。東京から南に約160キロ。新島の南西に位置する周囲12キロほどの小さな島です。人口は約520人。漁業が中心で、アシタバなどの栽培も盛んです。美しいリアス式海岸



や海中温泉が知られています。

今回の一輪車講習会は、10月3日に東京都新島村立式根島小学校で開かれました。主催したのは、学校の先生たちでつくる公益財団法人「日本教育公務員弘済会(日教弘)」。2016年度から一輪車講習会を始め、今年度は8都県14校で開催しています。この日の講師は、日本一輪車協会の公認指導員の鈴木奈菜さんと須郷真弥さん。2人とも国際大会で優勝経験がある元トップ選手です。

講習会はまず、2人の模範演技で始まりしました。体育館で32人の全校児童が見守るなか、けり上げ乗車や片足走行、連続スピンなどの技を次々に披露してい



きます。児童からは「えー。すごい！」の声。曲に合わせたペア演技では、詰めかけた児童の父母らも盛んに拍手を送っていました。

続いて実技指導。タイヤの空気圧は大丈夫か、サドルと一輪車本体の向きが合っているか、サドルの高さはおへその



少し下、ペダルに乗せる足の位置は土踏まずではなく、指がペダルから少し出るくらいの足の一番広い部分。そうした注意の後に、いよいよ練習です。

補助なしでは乗れない児童は、ステージに片手をつけて一歩ずつ前進。一方、すでに乗ることができる児童は、少しレベルが上の技に挑戦します。真っ直ぐにしか乗れなかったという4年生の宮下桃榎(ももか)さんは「姿勢をよくするように言われてやったら、一人で曲がれるよ



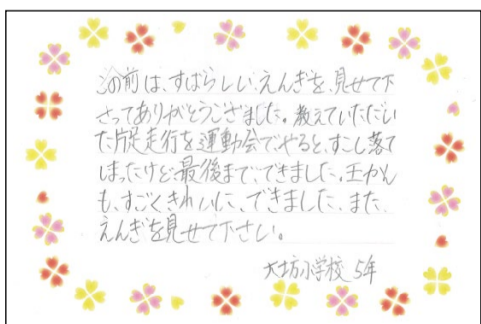
うになった」と声を弾ませました。片足アイドリングと横乗りにも何度も挑戦していた5年生の高久心暖(こはる)さんは、両方の技とも何度か成功させました。「難しいけれど、分かりやすいアドバイスのおかげで何とかできた」とうれしそうでした。

大野正雄校長は「子どもたちは月1回のクラブ活動や昼休みに練習しているが、指導は難しかった。きょうはすごく丁寧な教え方で、子どもたちもみな楽しかったと言っていた」と話しました。

「一輪車、教えてくれてありがとう！」

和歌山の大坊小、山口の周北・修成小から手紙

この秋に一輪車講習会を実施した小学校から、ベルマーク財団にお礼の手紙が相次いで届きました。



和歌山県田辺市立大坊(おおぼう)小学校(玉井朋子校長)は9月4日に一輪車講習会を開催。そこで鍛えた技を9月21日の地域の運動会で披露しました。「王冠」や「バックメリーゴーラウンド」といった技を見事に成功させたそうで、その「晴れ姿」の写真も同封されていました。



子どもたちからのメッセージには、技を成功させた誇らしげな報告とともに、講師の鈴木奈菜さんと高田朝日さんに「また来てください」「またえんぎを見せてください」という呼びかけがつつられていました。

9月30日開催の山口県岩国市立周北小学校(木村真彦校長)、同修成小学校(清水聡美校長)からは、両校長先生連名のお礼状が。「できないと言わないことや



あきらめない気持ち、そして正しい姿勢の大切さは、すべての練習の基本となるのが子どもたちにわかりやすく伝わり、意欲的に取り組むことができました」と書かれていました。

両校児童全員からのメッセージもありました。「うまくなったような感じがします」「せんせいとってもすごかった」「スピンができるようになりたいです」などの言葉が、講師の鈴木奈菜さん、須郷真弥



さんと撮った記念写真を囲むように書きこまれていました。